

巻頭言

公益社団法人 日本放射線技術学会
東北支部副支部長 村中 健太

第8回東北放射線医療技術学術大会の開催にあたり、各方面より多大なるご支援とご協力を賜り誠にありがとうございました。

合同学術大会は、今回から2巡目となり新たな出発という事になります。これまでと大きくは変わりませんが次のステージへとつなげる思いを込め「未来へつなぐ医療への架け橋」の大会テーマのもと、チーム医療の一員として放射線技術が診療に貢献できることを考える事としました。

一般研究発表数では108演題、参加登録者数は565名の参加をいただきました。2か月の期間で学会が続いたにもかかわらずこれだけご参集いただけるのは、皆様方の研究に対する熱い思いと放射線技術を診療に繋げるための志があつてのことと推察いたします。

今回の企画としては、シンポジウムに「放射線検査における検査説明と相談」について取り上げました。モダリティ別、病院規模別で5施設の演者の皆さま方からご報告いただき、貴重な経験を基に現状と今後の在り方について共有させていただきました。

特別講演として、高岡ふしき病院の原田淳也先生はソーシャルワーカーの視点から放射線検査と受診者コミュニケーションを取り上げ、検査者と受診者との関わり合いについて、皆さまと対話をしながらご講演を進められました。放射線検査では、様々な検査や治療によって不安やストレスを持つ受診者に対し、一人一人個別の受診者と向き合い、協働しながら良質の検査、治療を行うことが大切と述べられました。どちらにも共通することは「接遇」と考えます。

私たち診療放射線技師が日々の研究を進めることにより放射線技術の発展があり、そしてその放射線技術を診療に繋げるために患者さまとのコミュニケーションが欠かせません。技術を生かすも殺すもその懸け橋となる「接遇」しだいということを改めて認識いたしました。

市民公開講座では、岩手大学理工学部の成田晋也先生より、素粒子物理学の未解決問題を探るための実験計画として、国際ニアコライダー計画の概要を紹介いただきました。宇宙の事を考えるいい機会となり、ILCが現実のものとなれば東北の環境も一変するのではないかと感じられました。素粒子物理学の研究が進歩し、ひいては医療の発展にも繋がるような架け橋になることを願っております。

最後に、本学術大会の準備に際しまして、多大なるご協力をいただきました関係各所の皆さま方へ感謝申し上げます、盛会裏に終了することができましたことを実行委員一同、心より御礼申し上げます。

東北支部の活動が益々発展していくことを祈念するとともに、今後とも皆様方の更なるお力添えを賜りますようよろしくお願いいたします。